



元気とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2026年03月02日 第1257「週刊五十嵐レポート」

税理士法人から見た景気

2月16日付日経新聞、「月曜経済観測」は税理士法人代表のインタビュー。

足元の景気はどう見ているかの問いに、「中小企業に限定すれば、景況感
は全く改善していない。顧客企業は約3600社、赤字企業は全体の44.2%。
廃業・閉業した会社は156社、全体の4.35%。廃業・閉業は、2023年98社、24
年110社。この3年でますます悪化している。赤字企業は、23年45.6%、24年
は44.1%と改善の兆しが見えない」。

かなり厳しい状況ですね、に対し、「私どもの顧客は従業員数1人～50人の
零細と云っていい規模の企業が多く、この層の経営環境が特に深刻。零細
製造業は、高価格で販売できる新製品の開発も難しく、中小製造業の多くは
3年前、5年前と同じ製品を作り続けている。これでは収益力は改善しない」。

何が問題なのでしょうかの問いに、「人手不足につきます。中小企業が新
規採用の募集をかけても、応募が極めて少ない。ロボットやAIを導入して人
手を補えと言われても、投資費用も専門人材もない。中小でも在庫を持た
ない非製造業はまだいい。中小製造業は注文がオーダーメイド的で多岐に
わたり、合理化が難しい。請負価格の引き上げは少しずつ進んでいるが、抜
本的な解決策にはなっていない」。

人手不足を改善する方法はあるかの問いに、「外国人労働者に頼るしか
ない。ただ円安の影響もあり、簡単ではない。製造業だけでなく、飲食、運送、
介護の現場も海外人材を活用しないと回らない。建設業は外国人労働者が
機能し始めた印象がある」。

中小企業が課題解決のハードルは高いのではの問いに、「大企業や中堅
企業は経営コンサルタントに頼んだり、社内に優秀な人材がいたりするので
課題に取り組める。中小企業には難しい。税理士法人が手助けするしか
ない」と締めた。

現実はそのなのでしょう。しかし55.8%は黒字企業。過半を超えている。黒
字企業の特徴を話してもらいたかった。社長の資質の違いが黒字か赤字か
に分かれる。赤字企業は、人手不足というよりも社長の経営能力不足では。

ちょっと
気になる出来事

2月28日付日経新聞、「銀行事務5000人分削減」という記事。人口知能
(AI) が金融機関の事務職のあり方を変え始めた。

みずほフィナンシャルグループは業務の効率化に伴い、今後10年で全国
に約15,000人いる事務職の事務を最大5000人減らす。解雇はせず、個人向
け営業など他部門に再配置する見通し。口座開設や送金手続きに必要な書
類の確認や顧客情報の登録手続きをする業務にAIを導入する。2026年～28
年度の3年間でAIの開発に500億～1000億円を投資する計画。

三菱UFJFGはAIエージェント「AI行員」を1月から順次実装している。AI
の活用で人間が付加価値の高い仕事に集中できるようにする。

三井住友FGは生成AIで社内規定や通達などの社内情報を検索できる仕組
みを始めた。1人当たり月8時間の労働時間短縮を見込む。26～28年度にIT
分野に約1兆円を投資する。

大手企業はAIに積極的に投資し、事務効率化を図る。事務に人が少なる
傾向が顕著。一方、中小零細企業は、「AI、何それ？」という感覚。そし
て投資する資金も少ない。生産性の差が開く一方。早く気付き、動く人が
勝つ。



一口メモ
知識

気構え

わたしが64歳の時のことだったが、陳(ちん)の国で軍隊に取り囲まれて、
食糧も絶え、つき従っていた弟子たちもフラフラになって立ち上がることも
出来なくなっちゃったんだよ。

そうしたら弟子の子路(しろ)がカリカリしちゃってね、「先生、先生
のような正義の人でも、こんな災難に遭わなければならないんですか」と喰ってか
かるから、

「正義の人だろうと困難な目に陥ることもあるさ。ただ小物のようにジタバ
タしないだけのことだよ」と諭(さと)してやったよ。

「高校生が感動した『論語』(祥伝社新書/佐久協)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

